

# 令和2年度事業実績報告書

社会福祉法人 椎原寿恵会

## 佐賀事業部

### <特別養護老人ホーム 真心の園>

平成29年12月より休止中の旭1階の1ユニット再開を1番の課題として取り組みを行ったが、介護人材不足や職員の退職等もあり、令和2年度も再開する事が出来なかった。職員不足は現在も慢性化している為、外国人留学生やシニア世代に活躍の場を提供しながら、新規職員の獲得と現任職員の負担軽減に努めていく。

入居者の高齢化・重度化も継続しており、死亡退居者・長期入院による退居者が多い時で月に6名の時もあり、新規入所が追い付かない月もあった。ショートステイ9床分を定床化し特養定員129名(休止中の10床を除く)となったが、特養の入居者を充足する事がなかなか出来ず、主に空床利用を活用したショートステイ利用となった。最終の稼働率として、旭1階休止も定員に含めると定員139名に対し入居稼働率は81.6%、休止を除く定員129名に対しては入居稼働率87.9%であった。

新型コロナウイルスの影響で積極的な営業活動が出来なかったが、ワクチン接種もスタートし終息の兆しが見えてきている。電話連絡や郵送による営業活動を継続し新規入居者確保に努めると共に、協力医療機関であるまごころ医療館とは引き続き、連絡・連携を密に行い、ショートステイ長期利用者をふくめた待機者の確保と、新規入居者獲得について相互の連携を強化し稼働率の向上を目指す。

### <真心の園ショートステイ>

安定した利用者数の獲得に向けた取り組みを年間を通し実施したが、新型コロナウイルスによる影響もあり、最終実績としては1日平均11.9名にとどまった。現在定床化した特養枠も少しずつ入居者が増えており、ロングショート利用者や新規利用者獲得を継続しながら、稼働率90%を目標とし年間を通した稼働率アップへつなげていく。コロナウイルスに関しては引き続き感染予防を徹底し、安全安心にサービスの提供を行うと共に、可能な範囲で行事等も実施し、利用者の方に喜んでもらえる事業所づくりに努める。

### <デイサービス事業>

- ・コロナ禍に伴い、機能訓練指導員を同行しての医療機関への営業活動は難しかったが、担当ケアマネージャーへ取り組みの説明・事業所のPRを行ない、新規利用者獲得に努めた。
- ・外行事・おやつ作り・カラオケ等の感染リスクの高い行事は出来なかったが、季節感を感じられる物作り・個々の意見を取り入れた室内行事の充実を図る事ができた。
- ・リモート研修への参加・内部研修の実施により介護技術や知識の向上に努めた。感染対策を徹底し、質の高いサービス提供に取り組む事ができた。

### <訪問入浴サービス事業>

利用者の状況を把握し、家族の意向の確認・他職種との連携を図り、感染対策に考慮しながら入浴の提供ができた。また、車両・物品のメンテナンスを行い、安全性を重視した業務が出来た。

### <ホームヘルパー事業>

(真心の園ホームヘルパーステーション)

- ・利用者の変動を見極めながら新規の受け入れを行い、利用者数の安定が図れた。
- ・定期的なミーティングで職員同士の意見交換ができ、統一した支援が出来るようになった。
- ・感染対策を徹底しながら訪問を行えた。

(鳥栖市中央ホームヘルパーステーション)

- ・入院等の状況を見ながら新規利用者の受け入れを行い、利用者数の安定を図った。
- ・利用者の少しの変化でもケアマネージャーへ報告し、情報共有を行い連携に努めた。
- ・感染予防対策を徹底し、ミーティングにてマニュアル等の確認をし、各職員の意識付けもできた。

### <居宅介護支援事業>

- ・コロナウイルスの影響で多くの研修が中止となったが、リモート研修や事業所内での勉強会を実施する等資質向上のための機会をつくる事ができた。
- ・医療機関で面会制限がかかり退院時のカンファレンスができない場合でも、他の方法で連携を図り、スムーズに在宅復帰ができるよう努めた。
- ・令和2年5月から真心の園・中央在宅介護支援センターが合併し、上位の特定事業所加算を算定する事ができるようになり、支援件数も目標数値を達成できた。

### <給食サービス事業>

- ・配食数・利用者数共に前年度にくらべ、年間で鳥栖地区が3,655食増加、みやき町が1,396食減少している。利用者数は鳥栖地区が97人増加、みやき町は57人減少している。前年度に比べて年間2,259食増加になる。経常活動収支差額は+1,402千円になる。
- ・利用者のニーズ合った食事形態の提供、食中毒予防及びコロナウイルス感染予防にも努めました。
- ・利用者の安否確認を行ない、必要に応じて行政等への情報提供を行った。
- ・車両

事故に関しては発生なし。車両点検をし、安全運転を心がけるよう徹底をしました。

### <鳥栖市鳥栖西地区地域包括支援センター>

鳥栖西地区地域包括支援センターは包括支援センター事業の委託を受け11年目を迎える。介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」として、公正、中立性の高い事業運営を今後も継続して行っていく。

地域包括ケアシステム構築に向けて、高齢者の生活を総合的に支えていく為の拠点づくりを目標とし、『住まい・医療・介護・介護予防・生活支援』を一体化に提供できるケア体制を推進し、高齢者がそれぞれの住み慣れた地域において、自分らしく安心して暮らしていけるまちづくりを目指し、各専門機関との連携を取り対応していく。

令和2年度は、感染症対策として、各地域へ出向く事を控えなければならない状況であった。その為、各地区の民生委員・区長との関わりを持ち、気になる高齢者世帯へは出向き相談を受け付け、状況に応じた各機関へと繋ぐ事が出来た。

今後は、感染対策を取った上で、出前講座など地域へ出向き、介護予防や地域共生社会の実現などについての啓発活動を行っていきたいと考えている。

### <ケアハウス花みず木>

・令和2年4月1日～令和3年3月31日の状況は、毎月100%入居率を目標とし月途中の死亡退居はあったものの、達成できました。

・新型コロナウイルス感染拡大の中、より強化した感染予防対策を実施したことで、様々な感染症の発生を防ぐことができました。また、入居者の体調面において健康チェック（現在も、毎朝の検温実施・必要者の血圧測定）を行い、各人の体調の変化を早期発見できるよう努め、家族・医療機関・福祉との密な連携を図りました。4回/年の救急搬送がありAEDの使用があったり、早期対応により発症前と変わらない状態で退院されたりと様々な場面がありましたが、職員研修の実施に結び付け職員のスキルアップができたと思われます。

精神面にも気を配り、入居者の声・訴えに耳を傾け、不安・戸惑いが解消できるよう、日頃より状況把握、共感と受容の気持ちで対応し、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、外出行事当も計画・実施し、外出できない状況の中でも気分転換を図ることができたと思います。

・介護保険適用者が全入居者の4分の3以上を占めていますが、各在宅福祉サービスを利用し、また、未認定者についてはリラクゼーションルームの充実を図ることで自立生活への支援に努めました。

・活動行事では、地域との交流はほとんどできませんでしたが、要介護者も参加できる環境を作り、自然に親しむ外出行事など行いました。居室への閉じこもりを防ぐ為、施設内での楽しみ（カラオケ・おやつ作りほか）を取り入れ、ケアハウスの入居者同士の交流も増え喜ばれています。

### <グループホーム和が家>

- ・主治医や訪問看護ステーションとの連携により、利用者の体調管理や急変時の適切な対応に努めた。
- ・コロナ禍で地域との関わりはできなかったが、屋内での行事やレクリエーションを行い、入居者も喜ばれた。また、運営推進会議も書面での開催となり、令和3年3月のみホームで開催し、この時に消防署立ち合いでの防火訓練も実施し、夜勤専従職員も参加することができた。

### <グループホームみどりヶ丘>

- ・コロナ禍の中、入居者の健康管理に常時努め、医療機関等、関連職と密な連携・適宜対応を図った。
- ・入居者・家族の心理面の安定を図る為、定期的な報告と制限付きでの面会・外出の対応を行った。
- ・入居者が楽しめる様、月毎に内容を考え、行事・レクリエーションの実施を行い心身の活性化に努めた。
- ・みどりヶ丘団地の班長と定期連絡を行い、地区清掃や日常の会釈等、信頼・連携・協力体制作りに努めた。
- ・保育園とは交流は自重し、互いの健康面・安全性を確認しあい、協力体制作りに努めた。
- ・コロナ対策として施設内の環境整備、備品の補充・確保。職員の健康管理。対策会議を行った。

### <みどりヶ丘保育園>

- ・保育士不足により一時保育、休日保育は引き続き休止している。延長保育は月決め者が減り、急な残業等による日割り延長者が大半を占めている。
- ・支援センターは地域の子育て中の若いお母さん方に対し、遊びの広場、公民館の出前保育等において育児相談を実施。子育てに悩むお母さん方のよき相談相手となっている。
- ・発達障害児が多くなってきたので、保護者との信頼関係を築き関係機関との連携を密にして早期療育に向けて努めている。
- ・同一敷地内のグループホームとの交流は、新型コロナウイルス拡大の影響で実施できなかった。

### <まごころ保育園>

- ・地域枠の利用者が増えて17名（職員6名、地域枠11名）の園児を預かることができた。年間を通して未満児の問い合わせが多く、1歳児枠を2名増やして、受け入れができるよう柔軟に対応した。

- ・コロナ感染症の影響で中止となる行事があったが、その分玄関に写真を掲示したり、園での様子を保護者の方へお伝えするように努めた。
- ・発達障害児の対応に苦慮したが、保護者との信頼関係を築き、関係機関との連携を密にすることで対応に努めた。

### <グランドハウスまごころ>

令和2年4月1日に新規開設し1年が経過。開設時は1名であった入居者も、毎月1～3名ではあるが新規入居者を獲得することができ、体験利用者を合わせると現在満床に近い状態まで到達することができた。新型コロナウイルスの影響により、相談受付や営業活動に制限がでる中ではあったが、関係機関への電話や郵送での営業活動、また周辺地域の広報誌掲載やインターネットを利用した全国的な広報活動を行ったことにより、関係機関や相談者への周知が図れた。また入居者及びその家族、関係する機関よりの紹介も徐々に増加していったことも大きく影響した。体験利用の積極的な活用も、ご家族や関係機関には好評であった。単月での黒字化は達成できなかったが、来年度は通年での黒字化を目指していく。

入居者へのサービス内容については、日常生活の支援や健康管理だけでなく、季節にあわせた行事やレクリエーションの提供、また個別の状態に応じた手工芸等の提供もできた。入居者数の増加に伴い、時間確保が難しくなっているが、来年度も継続して満足度の向上につなげていきたい。

法人内における当施設の位置づけについては概ね明確化されたが、協力医療機関や法人内での協力体制が十分にとれなかった状況がある。また外部周知という部分でも十分な発信ができなかった。来年度は他部署とも連携し、協力体制の強化・情報発信に努めていく。

新型コロナウイルス対策については、感染予防関連物品の確保、外出・面会制限などできる限りの対策を実施してきた。来年度も感染者が出ないように十分な対策を継続していく。

## 鹿児島事業部

### <ケアハウスかせだ>

令和3年3月31日現在の在籍数は28名（単身26名、夫婦1組）。内訳としては要支援1が2名、要支援2が5名、要介護1が13名、要介護2が1名となり合わせて21名の介護認定者数です。また、自立者が6名で事業対象者が1名となっています。6月から9月は安定した利用が来ていましたがその他の月が1～2名程度の割合で利用者の出入りがありました。利用者の入れ替わりはあったものの、10年以上が1名や5年以上10年未満の方も6名在籍されおり、利用者の健康状態により利用年数に影響している傾向にあると思えます。

## <デイサービス事業>

### (デイサービス遊逢)

認知症カフェを利用した相談やサービス提供の様子を実際に目にする事で、新規利用に繋がりを、開設7年目にして定員を満たすことができた。一方で、症状の進行や重度化により利用回数が増やした状態で施設入所や入院になるケースも多々あり、在宅サービスの難しさを実感した。スタッフの人材確保は上手くいかず、休日出勤や残業が増え負担を強いたが、12月に念願の専用浴室ができたことで、時間に追われることなく、個々にサービスが提供できることで、ご利用者にもスタッフにもゆとりがもてるようになった。

### (デイサービス金峰やすらぎ館)

令和2年度は新規利用者契約数4件、利用修了者数は8件。前年比で、一日平均件数0.9件の減少。実人員が月平均5名減少し、一日平均が10件を上回る月が一度もなかった。週6回の利用など利用日数が多い利用者様が数名おり、今後その方々の利用が終了した場合、実績に与える影響が非常に大きい。居宅介護支援事業所への営業内容を強化し、新規利用者の増加を目指した。

## <ほほえみヘルパーステーション>

令和2年度、1年間の新規利用者26名内、クオーレ入所者3名、ケアハウス入所者13名でした。利用修了者29名内、死亡修了者3名、入院(長期入院者含む)・入所18名でした。新規契約から利用終了に至るまで数ヶ月の利用者が4名いらっしゃいました。利用者の高齢化が進む中、ヘルパーの高齢化の問題を抱えながらも新規利用者獲得に努め、個々のニーズに応じたサービスを提供して参りました。年度末にはヘルパー1名の退職もありましたが、サービスの質を維持し新規利用者獲得に努めて参ります。

## <かせだフレンドホーム>

一人ひとりのスキルアップを図れるよう、OJTを通して学ぶ体制づくりを意識し取り組んできました。また、各部署長による職員面談を実施し、施設の理念、事業計画の周知を図った。一部ではあるが業務優先の考えから、利用者様視点でケアの充実を図れる姿勢を取り組んで笑顔も増えてきた。今後も利用者様に良い生活環境、職員にやりがいにつながるよう継続していく。

## <相談支援事業彩>

特定相談支援は施設入所支援利用者の3年ごとの障害支援区分見直しによる障害福祉サービスの更新利用者が多かったことから前年度より増加傾向が見られ、障害児相談支援については年度

末に就学や卒業によるサービス終了者が毎年複数人いるが新年度にかけて新規契約が再び入る傾向が見られている。新型コロナウイルスによる訪問等の自粛やサービス利用の休止、障害支援区分の延長等により不安を感じた利用者、保護者等もあり、しばらくはこの状況が継続する可能性もあるため、利用者、家族が大きな不安を抱えることなく安心して地域生活を送ることができるよう、今後も行政や地域、各サービス事業所棟と連携を図りながら支援をおこなっていく。

#### <グループホーム金峰やすらぎ館>

- ・令和2年度は入退居が7件、入院者がほぼ毎月の様に居り、入居率の平均が95.3%と前年度の入居率を大きく下回ってしまった。入退居はいずれもスムーズに行えたが、予期せぬ入院が多かった。
- ・コロナの影響で、外出する行事等がほとんど行えなかった。ドライブ等織り交ぜたがほとんどが館内での行事のみとなってしまったが、いろいろ工夫し入居者の皆さんには喜んでいただけた。
- ・職員の定着が思うようにいかず、入職しても離職してしまう結果となった。

#### <グループホーム椎原館>

- ・令和2年度は、4月に1名、2月に1名が退去されました。5月に2名、3月に1名が入居されています。
- ・待機者は、9名です。入居の申し込み数は鈍化しています。
- ・12月に非常勤職員1名が退職しています。
- ・地域との関係作りに継続して努めております。

#### <グループホーム有馬館>

令和2年度は1月に2名退去され1月、2月に1名ずつ入居されました。現在入居待機者は12名です。順調に待機者は増加しております。8月に非常勤職員1名入職。運営推進会議は新型コロナウイルス感染予防のため4月から4回開催中止し12月から再開いたしました。内部研修では認知症ケアの基本、接遇、感染予防対策力向上のための研修など実施いたしました。行事などに関しては感染対策を行いながら実施しております。

#### <クオーレかせだ>

令和3年3月31日現在の在籍数は28名（単身26名 夫婦1組の入居者）となっております。常に満床を心がけていますが、入院して戻って来られない方が多くありました。申し込みもあ



りますが家族の意向であり本人はまだ施設への入居は考えていなくて、声掛けしても入居とならない状態で残念な結果で年度末を迎えてしまいました。また、セレーノの開設によりこれからも移施設も考えられますが、連携を密にし情報を交換していきたいです。